
魔法少女リリカルなのは 転生者による原作破壊の物語

のりにゃんこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 転生者による原作破壊の物語

【Zコード】

Z7900Y

【作者名】

のりにゃん

【あらすじ】

ある日神様のミスで死んでしまった事もなく偶然転生させられる事になる少年少女たち。彼等は少しでも良い未来を創りうと奮闘する。

俺は真っ暗闇の中で目が覚めた。

上も下も、前も後ろも、右も左も分からない、暖かく、心地の良い

“闇”

そういうば死んだんだっけ。

そんな事を考えていると、不意に声をかけられた。

「おめでとう！君はこの度、見事転生者に選ばれました！」

は？なに？いかにも私が神様ですみたいな話し方するメガネは。

「なんで俺？つーか死んで漸く心地の良い場所に来れたのに。」

全くだ。末期の癌とか言われて一年苦しんだんだぜ？

つていうか、余命半年とか言われたっけ。今思つとすげえな。しかし享年十九歳か。我ながらびっくりだ。

まあ今更どうでもいいが。

「ふむ。君の疑問も尤もだ。簡単に言つと、寿命で死んじやつた人間をランダムに選び出し、その中から気に入らない奴を候補から外し、最終的に残つた人間の内の一人が君だ。まあゲームのテストプレイヤーにでも選ばれたとでも思つてくれたまえ」

あ、真面目な口調になつた。つづかゲームのテストプレイヤーかよ。

「世界は『魔法少女リリカルなのは』だ。では特典を二つ『えりつてことだから。ああ、ちなみに拒否権は無いから。』

えー無いの～。まあしあうがないか。

「じゃあ、『ジェイル・スカリエッティ』のフィッシュ数乗の頭脳をくれ。」

「はーー一つ。」

「いいの？流石に無理だと思つたのにー。」

「まあそんくらいなら。というか君、無理だと思つてゐるのに声つんだね。まあ、僕らそれ+5位はあるから。まあ中には馬鹿もいるけど。」

そつなのか。意外にすごいなメガネ。

「あと二つだよ～」

急かすな。まじで。

「じゃあ、レアスキルメイカーがいい。」

「ああ、レアスキルが作れる奴だね。まあ、妥当かな。了解。あと二つか。そうだな。」

「何でも覚えられて且つ効率が普通の百倍。できるか？」

「もちろんだ。まあ、そんな回りくどい能力を頼んできたのは僕の所では君が始めてだが」

そうなの。割と便利なのに。

あ、そういえば。

「俺らが入る体ってのは産まれてくる赤ちゃんのか?」とか新しく作られるのか?」

「これが気になつてたんだよな。一次創作じゃあよくあるナビビうなつてんのかわからなかつたし。

「特典に酷似した能力を一つ以上持つた人間にれるよ。まあそれで実現できない奴は新しく作るが。あと足りない特典は『えるから』

成る程。ん?

「実現できない奴ってのは?」

メガネは答えた。

「一次創作にたまにいるだろ?銀髪オッドアイとかさ。あと原作キヤラの親族とか。流石にそういうものは落ちて(存在して)無いから。並行世界になら探せばいるだろ?けど君らが行くのはあくまで転生者用の世界だからね」

へ~そうなの。

「神様ありがとう。色々教えてくれて」

「ありがとう、か……。その言葉を聞いたのは久しぶりだよ」

最低限の礼儀でしょう？

「よし、じゃあ記念に超ハイスペックな体にいれてあげるよ。」

は
い
?

「掛け声かっこ悪！」

馬鹿な事言つてたら下に落ちていいく感覚がして、

俺は意識を失つた。

EP00 → プロローグ → (後書き)

グダグダな気がしますが、作者は初投稿なので大目に見てください。

EP01 → 古代ベルカの王的なものになりました → (前書き)

書き換えました

EP01 → 古代ベルカの王的なものになりました

なんか暖かい液体の中にいる感覚がする。

ああ、転生させられたんだつけ。

あれ？

SIDE 科学者

漸く長年の研究の成果が出る。

古代ベルカに存在したという一人の王

聖王と霸王

最近の研究で明らかになった“騎士王”と呼ばれる、彼等と同時期に生き、共に戦つたとされる第三の王。

その三人の遺伝子情報をもとに人造魔導師を創る計画。

プロジェクト EMPEROR

今日はその完成体を稼働させる日だ。

おや？ もう時間か。さて、完成度はどの程度か記録せねば。

SIDE OUT

SIDE 名前はまだ無い転生者

「まつ とこう音と共に周りの水がぬけていく。

まだ目はあかない。

「おお！これが完成体か！」

ん？なんか色々声が聞こえるな。
ちょっと耳を傾けてみるか。

「はい。まだ溶液を抜いたばかりなので目はあきませんが。」

若そりうな声だな。

「で、身体スペックの方はどうなつている？」

じじいみたいな声だ。

「はい。魔力値の方はA A A + S - つて所ですね。あと筋力など
ですが、今の状態でストライクアーツの達人級かその少し下くらい
でしょうか。知能に関してはまだ分かりません。」

「ふむ、そうか。色々な薬品を投与して耐性を調べて見よつと思つ
から第一研究室まで運んでくれ。」

はい？今なんとおっしゃいましたかこのじじい？

薬物への耐性調べるって何？

待てやじじい！俺を殺す気か！殺す気なのか？

「ふふふふふ。まずはテトロドトキシン当たりから試すかな。ふふふふふ……」

死ぬかも……

そんなこんなで俺は意識を失った。

S H D E O U T

S H D E 研究者 B

「な……リンカー・コアが暴走状態に？いや、違う！これは……」

いきなり実験体に異常が発生した。

「な……何が起こつておる？完成体の体が赤く光出したぞ？」

リンカー・コアに暴走に近い症状があらわれた。

そして

「広域殲滅魔法発動。“ワルブルギス・ナハト”並行詠唱“デアボリック・エミッション”広域殲滅誘発魔法“フェアツヴィアイ

「フルング」発動

まるで、機械のような感情の無い声が聞こえた。

ハツとして実験体を見た。

実験体は両手を前に突き出していた。

実験体の両手に白い光と黒き闇が顕現する。

そして二つの魔力が干渉しあい、

灰色の“絶望”が全てを染めた。

SIDE OUT

SIDE 転生者

「死ぬかと思った。つづーかなんで生きてんの俺？」

「ああ、それは君のレアスキルが発動して広域殲滅魔法を放ったからさ。」

メガネの声がした。神様だもんね！驚いたら負けだよね！

「いや、でも俺デバイス持つてないんだけど、デバイス無しじゃ魔法使えないんでしょ？」

「君は面白い事を言つね。その手に持つてゐる魔導書がデバイスだよ。ああ、名前は霸天の「魔導書 管制人格名は ”アルトリア”だ。大事に使つてくれたまえ。あと研究者達は生きてるから殺人はしないよ。しかし記憶を消した上でランダム転移はしたようだけど。」

え、何それ怖い。

まあ同情はしないが。まあ同情はしないが。
大切な事なので二回言いました。

と言うかデバイスの名前、何て fate?

ああ、それより聞きたい事があつたな。

「何で人造魔導師に入れられたのか納得できる説明を求む。」

「ハイスペックな体で検索して一番性能が良くて、一番容姿が普通な体を選んだらそつとなつた。」

「一応聞いておこつ。他はどんな容姿だったの？」

「肌の色が青とか、トカゲ男みたいなばかりだつたが」

神様ありがとう！人間（スペックは化け物レベル）になれて良かつたよ！トカゲとか苦手だったから！

所でココ、ビーム？

EP01 → 古代ベルカの王的なものになりました → (後書き)

なんか本当にグダグダですごめんなさい。

感想等寄せて頂けると嬉しいです。

それでは次回 原作つていつだけ?

をお楽しみに!

「神様～ここど～～？」

気になつたので聞いてみる。

「ん？えーと……あつた。第135管理不可世界 通称 竜王の庭園だね。旧暦の462年に発生した次元断層の影響の調査中に発見された世界で、地質調査用次元航行船フューチャーがこの世界の物質を積んで飛び立とうとした時に巨大な竜の火炎弾で撃墜されてから管理不可世界とされているね。なにも持つて帰ろうとしなければ何もされなかつたそつだが。ちなみに今は新暦の62年だよ。あと余談だがこの竜は生体ロストロギア 竜王 とされているね。」

何それ怖い。

「あー、竜王の他には何が住んでんの？」

「ふむ。竜種が6000種類、魚類が9000種類、鳥類が600種類、爬虫類、両生類が9000種類、哺乳類は400種類ほどで人間はいない。文明レベルなし。大きさは地球の30倍。平均気温26度つて所かな。あと重力が地球やミッドチルダの120倍だね。さつき君がいた所ではミッドと同じくらいになつてたけど。あと研究者達は全員この世界には居なくなつたようだね。居住区は残つてゐるみたいだから住む所には困らないね。あとはドックは残つてゐるからデバイスとかも作れるよ」

「なんと言ひ「都合主義」……」
「なんだ。まじで。」

「えーと……重力変動装置は残つていないみたいだ。その身体は君の特典で効率が100倍になつてているようだからもう大丈夫みたいだね。」

うわー何でも覚えられて且つ効率が普通の百倍すげー。

「あとで言つて忘れてたけど特典には一部デメリットが付くんだけよね。」

「はあ？なんですか？」

「さなりだつたので驚いてしまつた。」

「『めんね』。忘れてた。あ、寿命縮めるとかは無いから安心していいよ。」

まあ確かに、何のデメリットも無くできるわけ無いよね。

「じゃあ俺にはどんなデメリットがあるんだ？」

「君の場合は、効率が百倍は食事量百倍、頭脳は普段は記憶力以外は一倍までに抑えられる、レアスキルマイカーは言つたと思つけど作つたら魔力枯渇。この三つだね。」

うわー 制限されても普通だー 食事量百倍以外は。

いや、待てよ？頑張つて通常の百倍腹が膨れるアイテムを作ればいいのではないだろうか。

よし、そうしよう。食費の為に。

まあしかし

「それ程酷いデメリットじゃなくてよかつた」

うん、本当に良かつた。

「確かにね。因みに魔力EXとかだとリンクアーコアが覚醒するまで極度の運動音痴になつたりするよ。あと銀髪とかだと下手したらアルビノになっちゃうね。まあせっかくだから命に別状がないようにはしたそなうだが」

「うん。色素が限りなく少なくなるつて事だもんね。つてか今おかしな事言わなかつたか？」

「もしかして、それ頼んだ人いるの？」

「うん。いるよ。デメリットは聞かなくていいぜって言つてたそなだから言わなかつたらしいが。因みに魔法の神様（12級神）だよ」
「そのあと思いつきり愚痴られた。精神的に死ぬかと思つた。
神様の話ではそいつはもうデバイス持つて魔法使えるようになつてるし銀髪も家系にしたそなうだ。

魔力値EXとか相手にしたくなー

よし、極力原作に関わらないよう努力しよう。

EP02 原作ついでにいつだっけ？（後書き）

転生者「ねえ。名前はいつ出て来るの？」

作者「んー 次ぐらいいじやね？あとロロロネームになると
思つかう。」

転生者「うわー よりこみつて厨一な名前になると書くのか。」

神様「あと海鳴の家についてはそのうち俺が用意するから
転生者「結局介入する事になるのか。」

エアコン エアコンがなくなったおこ（前書き）

感想で「お指摘頂きましたが此処ではハイ//ヤヒクロノは同じ年といつ設定です。

じつも既にそこには

名前が無いのでオリジナル（？）の名前を借りて、『『ワインセント・ロビンソン』』です。

今現在、原作が始まる頃の新暦の65年です。

そして現在地は時空管理局次元航行艦『アースラ』です。

どうしてこうなった！

以下回憶

～三年前～

「取り敢えず、海鳴に家を作るのは闇の書事件が終わってからでお願いします」

俺は今非常に困っている。

魔力値EXで海鳴産まれなんて特典をつけた奴がいるからだ。

折角の第一の人生棒に振りたく無いもの！

魔力値EXで海鳴つて事はとんでも無い事になりそうだもの！

「面白くないけどそこまでするならいいよ」

俺、今絶賛土下座中である。

その甲斐あつてか何とか諦めてくれたようだ。

「まあ、その代わりに幾つか言つ事聞いてもらひつか」

なん……だと……？

「何とかして回避しなけ」「異論は認めない」「やくせつ……

「もういいよ……で、何すればいいのや」

「うん。まずはそつちの時間で言つ30年位前に送つた転生者（故人）が作った管理局の制度があるんだけど」

そんなに前にも送つてたんだ。因みに現時点で何人いるんだろう転生者。

「僕以外の神様が送つたのを合わせると、数えられない程度には。話戻すけど、その制度、ギルド制度っていうんだけど」

モンハンのギルドみたいな物ですね分かります。

「概ね合ってるよ。で、そこで傭兵、まあハンターみたいな物だね、に登録していくつか依頼をこなして欲しいんだ。因みに理由は見たいからだから」

まあそれくらいならいいか。リンクアの研究とかしたいし。違法魔導師の逮捕位あるだろ。

んで、無力化と称してリンクア「ア抜けばOK」と。

「素敵な出会いを用意しておくれ……ふふふ……」

ん?なんか言つた?

「いや、何も」

一翌日

時空管理

局第1管理世界支部ギルド課

「ようじや、時空管理局第1管理世界支部ギルド課へ。ご用件はなんでしょうか。」

「傭兵登録にきました。」

つ、疲れた……

第135管理外世界からは滅茶苦茶遠かつた。

一応外見年齢は11歳位にしている。神にこの年齢がひょいひょいと言われたからだが。

なんでも登録はここでしかできないそつた。しばらく往復したら修行になるかもな……

で、迎えてくれた人が……

「はい、ありがとうございます。受け付けのハイハイ・リミットです。では、こちちの書類に氏名、年齢を記入して、同意しますに丸を付けて下さい」

「あ、分かりました。」

神様エ　せつて一態とだ。そつに違ひない。

書類の内容（一部）

氏名　ヴィンセント・リヒテンシュタイン

年齢　11歳

例え任務で死亡したとしても管理局を恨んだり、訴訟を起こしたりはしません。また、以下の内容に同意します。

一つ 受けた任務は最後までやり遂げる。また、解約する時は報酬金額の一倍を支払う。

一つ 数人の傭兵と共同で依頼に当たる際、揉めない。また、報酬金額は人数で等分にする事。ただし、双方同意の上ならば取り分けは好きにして良い。その場合、書類に示しておき、ギルド課窓口に届けておく事。

一つ 執務官、又はそれに準ずる者の行う試験に定期的に参加する事。この時、失格又は不参加の場合、傭兵登録を抹消する。試験は半年周期で行う（都合が悪い場合は一週間まで猶予が与えられる）。

etc.....

読むのめんどくさい。 同意します つと。

「できました。」

「ほい、と手渡す。

「はい、承りました。ヴィンセント・リヒテンシュタイン様ですね。あ、同じ年なんだようじへね」

「きなりフレンドリーになつたなさい！」

「いやー雰囲気が大人っぽかったからね。あ、公私はちゃんと分けるからね。つと、じゃああつちの部屋に居る執務官の人の認定試験を受けて来てね~」

何で考えた事に返事が来るんだろ神でもあるまいに。

「顔見てたら大体わかるよ? あとは勘かな?」

勘、怖え

せつと指示された部屋に言った。家に帰つて寝たい。

試験、面接室

とりあえずノックをする。

「どうぞ」

中に入った。面接だからめっちゃ緊張するわ~

「試験官のクロノ・ハラオウンだ。座りたまえ」

いや、予想はしてたけどね。高橋 さんっぽい声だと思ったから。

「えーと、傭兵志願者のヴィンセント・ロヒテンショタインです。よろしくお願ひします」

軽い心理テストのような物をつけてた。

「では次に実技試験に移る。これから僕が撃つ攻撃を回避し、攻撃を一撃で良いので僕に当てるてくれ。制限時間は20分だ」

訓練用の部屋に連れて来られた。

クロノ・ハラオウン試験官はもう既にシテリを起動させている。

「アルトリア、セットアップ」

初起動である。

【Jawon! Annan】

うん、川澄さんの中だよ。

とりあえず騎士甲冑を装備する。

「コードギアスのランスロット見たいなイメージだ。

「開始する！」

直後、魔力刃がすぐ横を通過した。

すぐに戦闘モードに切り替える。騎士王の経験は伊達じゃない！

三本四本と魔力刃が飛んでくる。すべてを躊躇する。当たりそうな物は逸らす。そして徐々に近づく。

集中する。

「剣を！」

【 a s c a l o n f o l m I ! - E x p l o s i o n - 】
アイコン

手にアスカラロン（シグナムのレヴァンティンのカードリッジの所にあるのがリボルバー）が現れる。

せりか三回のカードリッジロー。

「龍牙一閃！」

圧縮された魔力を放出する！

「合格だ。正直防御が間に合わなかつた。しかし、戦闘終了後に魔力枯渇で倒れるな。実戦では（ry

やりすぎたような気がします。

アルトリアは性能は凄いが反動もすごいことが分かりました。

まあ原因は俺の実力不足なのですが。

劣化版を作りついで思いました。

小一時間クロノに説教食らいました。

「ありがとうございます」と言いました

……その日は疲れたのを禮をして帰った。

— 数ヶ月後

「ロミエッタ。依頼番号12985次元犯罪者ラカイ・モブ
ーキヤを捕まえて来たぞ。あと無力化すんのにリンクアコア抜いて
あるから」

顔に針がささつたおっさんを引き渡した。

「報酬金額の5000000\$だよ」

「は、ぼり儲け。SSクラスは伊達じやないな。

因みに報酬金額の半分は仲介料として管理局が持つて行くので俺
が貰つたのと同じ金額を管理局も貰つて居る。そしてぼり儲け。

あれからあつたことを簡潔にのべるといつなる

- ・リミエッタやクロノと友人になり、リンディ提督と知り合つた。
- ・聖王教会の任務でカリム・グラシアに会つた。
- ・ブラックリストに載つている転生者（全てが5クラス以上の広域次元犯罪者）にやたらと遭遇した（オリ主になるんだーとかほざいていた）。
- ・クロノと模擬戦をするようになつてからクロノの実力が上がり、原作の倍以上に強くなつた（階級に変化なし）。
- ・レアスキルマイカーでマルチタスク100倍を作つたり、監視用スフィアの応用で無限書庫を読破（4ヶ月）した事で『歩く無限書庫』なんて言つ称号がついた。

「了解

おお、クロノが自分から頼んで来るなんて珍しい、と思つて、

「実はこれから数ヶ月、航行任務があるんだが、少し遠くまで行く事になるから、『歩く無限書庫』であるヴィンセントに応援を頼みたい」

「何、頼みたいことがあってな
頼みたい事?なんだよ」

クロノに呼び出された。

「おう、クロノどうした?話があるって

問いかける。

と、答えてしました。

この時期の次元航行は無印に突入だと言つ事を忘れて。

冒頭へ戻る。

ヴィンセント・リヒテンシュタインは、いつなつた経緯を思い出しながらため息をついた。

自分に充てがわれた部屋の窓から見える、青く綺麗な水の惑星
第97管理外世界 通称地球を眺めながら。

いわなるように仕組んだ神様に愚痴をこぼしながら。

主人公設定（前書き）

主人公の設定（無印、A、Sまで）

主人公設定

名前 ヴィンセント・リヒテンシュタイン

性別 男

年齢 14歳

CV 未定

容姿 金目に少し薄い碧髪。身長170cm体重56kg

デバイス 霸天の魔導書（管制人格名 アルトリア）CV川澄綾子

（型番MWCD-000）CV福山潤

多兵装管制型デバイス ゼロ

バリアジャケット

- ・アルトリア コードギアスのランスロットの頭部分がない奴
- ・ゼロ フォルム？まである。普通はフォルム？か？しか使わない。フォルム？、？はコードギアスのゼロを鎧みたいにした奴

レアスキル

- ・レアスキルメイカー レアスキルが作れる。一つ作ると魔力枯渇になる。

- ・解析 対象を見る事で解析ができる。画面越しや写真でも構わ

ない。

対象は無機物から生物までなんでもできる。

対象が生物ならば、種族名、名前、親の名前、年齢、性別、体調、資質、身長、体重、経歴などありとあらゆるもののが解る。心も読める。

対象が無機物ならばその物質の構成、効果、構造等がわかる。ON、OFFの切り替えはできる。（心を読むのはほぼ意識せずにする事がある。ただし心を読むとかなりの魔力消費になるため発動は0.1～0.2秒が普通。この場合魔力反応は無い。最大発動時間は10分）

魔力消費極小。

レアスキルメイカーで作ったものその1。

- ・魔力変換資質 雷……魔力を雷に変換する事ができる。
- ・魔力変換資質 炎……魔力を炎に変換する事ができる。
- ・魔力変換資質 風……魔力を風に変換する事ができる。騎士王の資質を持つ者だけが発現すると言われる魔力変換資質。
- ・聖王の鎧……ありとあらゆるダメージから身を守る。色は虹色と同じ。
- まだ自分の意思では発動出来ない。
- ・騎士王の剣……魔力や自分の周囲にある物質（空気、水を含む）で剣を生成する。
- まだ自分の意思では発動出来ない。
- ・マルチタスク・ハンドレット……高度のマルチタスク。

自分の使えるマルチタスクの百倍までの並立思考が可能になる。

ただし魔力を消費する。

魔力消費量 小。

レアスキルメイカーで作ったものその2。

・デストロイモード……騎士王の家系に代々受け継がれるレアスキル。

発動する事で体感時間、腕力、脚力、思考速度、五感全てが百倍になる。

魔力光は 月光蝶の色に変化する。目の色も赤くなる。
魔力消費、身体への負担が高いため、長くとも5分～10分が限度である。

魔力消費量 特大

・効率が百倍……プラスの方向に効率が百倍になる。
ただし食事量も百倍になる。

特殊

・騎士王、霸王、聖王の記憶、経験……クローニングの途中で植え付けられた。

身体スペック()は通常時

・筋力 S+→SS- 片手で6トンまで持ち上げられる。

・魔力 AAA+→S-

・頭脳 EX (SSS) スカリエッティのフィッシュ数乗(2倍)

・容姿 AA- まあまあ良い位

- ・全ての動物と話す事が出来る。

才能

- ・聖王、霸王の徒手空手の才能
- ・騎士王の全ての武器を扱える才能
- ・声を自由に変えられる。

主人公設定（後書き）

変更があるかもです。

EP04 介入

「それじゃ、クロノ、ヴィンセント君。行って来て頂戴。」

「どうも、ヴィンセント・リヒテンシュタインです。」

ジュエルシーードの前で戦闘始めようとしてる馬鹿一人が居るので止めて来いと頼まれました。

さて、お仕事お仕事。

SIDEもう一人の転生者

俺の名前は 神咲桜花 転生者だ。

特典は魔力値EX銀髪オッドアイ海鳴市生まれだ。

魔法の神とか言つのに転生させて貰つた。

なのは、アリサ、すすかにフラグを建てたしフェイトにフラグを建てればハーレムの完成だと思っていたら、フェイト側にも転生者がいやがつた！

俺のハーレムの邪魔しやがつて！絶対に許さねえ！

SIDEOUT

SIDEもう一人の転生者

僕の名前はカイト・ヤマダ。父が聖王教会の騎士で、母が聖王教会のギルド窓口の受付だ。

信じられないかもしないけど、前世の記憶がある。

武神ノイエンさんに転生させて貰った。

特典は、全ての才能と最強の盾、それに運気のクラスである。

それぞれのデメリットは、努力しなければならない、魔力消費が激しい、何運かは選べない、である。

僕はせっかく第一の人生を貰ったので、平穏に暮らしたかったのだが、『偶然』街の外れでジュエルシードを見つけて、『偶然』フォイト・テスタークサに遭遇し、『偶然』デバイスを持っていて、『偶然』手伝う事になった。

手伝う事に関しては自分で決めた事だが。

何運かは選べないってこいつことか、と思つた。

最初は某魔導書図書館に出てくるシンシン頭の人の如く、「不幸だ」と言つてた。

でも、一緒に戦うつむか友達になりたいと思つよつになつた。

所詮アニメの中だと思っていた。

フォイトの顔を見て、瞳の奥の寂しさを見て

変えようと思った。

SIDEOUT

SIDE,ヴィンセント

「「そこまでだ！」」

原作通り、二人が戦いを始めようとしてる所で介入した。

マジで危なかつた。ぎりぎりセーフ！

「時空管理局次元航行艦アースラ所属、執務官のクロノ・ハラオウ
ンだ。そして」

クロノの言葉に続ける。

「同、アースラ所属、執務官臨時補佐官のヴィンセント・リヒテン
シュタインだ。」

「速やかに武装を解除し、投降してもらおうが！」

原作とセリフが違う？ 気にするな！

この場合俺に求められるのはレアスキルによる情報収集である。

（えーと、フロイト・テスタークサ……アリシア・テスタークサ

のクローン。プロジェクトFの成功体。才能値総合S -

高町なのは……喫茶店翠屋の子ども。才能の塊。才能値総合S +
カイト・ヤマダ……ヤマダさん（知り合い）家の子ども。才能値総合A A A。つて、ヤマダさんの所の長男かよ。後で連絡いれとこ。
ユーノ・スクライア……スクライア一族の鬼才。結界魔導師。才能値総合A A A -

神咲桜花……馬鹿。ロストロギア月夜の魔導書のマスター。才能値総合C +。魔力値EX。)

とりあえず解析した事をメモつとく。

「さて、詳しく話を聞かせ「フェイトの邪魔をするな！」つチイ！
(使い魔か！)」

何かオレンジ色の髪をした使い魔が襲つてきた。

クロノに念話を飛ばす。

ジュエルシードの確保を！

了解だ！

ジュエルシードをクロノに任せる

「いきなり攻撃をしかけないで頂きたい。ア……ごほん。フェ…
…！」ほつ…金髪少女の使い魔よ。

やべえ。危うくレアスキルばらす所だった。

さて、どう切り抜けますかね。

EP04 介入（後書き）

介入編です。

SIDEヴィンセント

「当たらなければどうと言ひ事はない」

どうも、ヴィンセント・リヒテンショタインです。
ただいま使い魔アルフと交戦中です。

うつとうしきけど様子を見る為にひらひら回避しています。

「ふつ？このつ？ひらひら！避けるんじゃーないよ？」

「阿保か。避けるなと言われてわかりましたって止まる馬鹿がいるか」

回避、回避、また回避。

うん。この程度なら問題ない。

お、怒りで攻撃が直線的になつてきた。

そろそろ倒すか。

「ゼロ、クロイツ フォルム？ セット

【了解した。】

（クロイツはシュベルトクロイツの色違いで、フォルム？だと
十字架がなくなり、棍のような形態になる。）

クロイツフォルム？が手に現れる。それで拳をいなし、

「セイクリッドブラスター・ガトリング」

砲撃魔法で零距離射撃。しかも連射。
一秒間に30発を一秒間当てる。

これは完全に連射性能に特化しているので一発の威力は無印版町なのはのティバインスターの五分の一位だ。
つまり十一発分。

十分だな。

「くそお……！」

アルフが涙田でこっちを睨んでくる。

「アルフ！ 撤退だ！」

ヤマダさん家のカイト君が叫んだ。

まあ俺らは現場にいる人から事情を聞かないといけないから追えないからいいけど指示は聞かれるとまづいから念話を使えば良いのに。

とりあえずクロノに念話を飛ばす。

クロりん、ジュエルシードの回収は終わつたか？

その呼び方はやめてくれないか！ まあ回収は終わつたよ

ナイスツッショミ。やっぱクロノはいじり甲斐があるわー。

そうか。すまんクロノ。一組逃がした

気にするな。僕らの任務は次元震の原因の究明、対処だ。それに話はそこに居る彼らに聞けばいい。そんな事よりこっちの状況をなんとかしてくれないか

クロノの方を見ると神咲桜花に絡まれていた。

「おいらKYOUてめえなんでなのはとフェイトの決闘の邪魔しやが

つた？」

「あのまま戦闘を始めていたら大規模な次元震が起ころる可能性があった。それを止めるのは管理局員なら当然の事だ」

「ハツ！ そんなくだらねえ事でなのはとフェイトの大切な決闘の邪魔すんじゃねえよ」

「いつ世界滅亡の危機をそんな事扱いしやがつたぞ？ 馬鹿じやね？」
解析で見てみると 神咲桜花の精神状態が爆発寸前だつた。

あー、俺こっちの子ら説得するからそつちよろしく
薄情者！

なんか言つているような気がするが俺には聞こえない。
聞こえないつたら聞こえない。
聞こえないつてば！

「こんだけは、少し話を聞かせて欲しいんだけど、
アースラ 艦まで来ても
らえるかな？」

「あ、はい」

SIDE OUT

SIDE 神咲桜花

さて、原作ではそろそろKYが介入して来る頃だな。 KYをボコ
つてストレス発散してやんよ

「「そこまでだ！」」

は？一人の声がしなかつたか？

桜花が振り向くとそこには黒いバリアジャケットを身に纏つたクロノ・ハラオウンと、もう一人 某黒の騎士団長の仮面がない ve 「のバリアジャケットを纏つた碧髪の青年がいた。

「時空管理局次元航行艦アースラ所属、執務官のクロノ・ハラオウンだ。そして」

と、クロノの声に続けて、青年が言った。

「同、アースラ所属、執務官臨時補佐官のヴィンセント・リヒテンシュタインだ。」

（ なるほど。コイツ転生者だな。俺のハーレムの邪魔しようつて感じだな。）

まあ、今はＫＹをボコつてストレス発散するとするか。
フェイトに攻撃した事をネタにボコれば何も言われないだろう。

しかし、そんな予想とは裏腹にクロノはフェイトに攻撃しなかつた。

（ な？馬鹿な？何でＫＹがフェイトを攻撃しないんだ？
くそつ！フェイトを攻撃させてからぶつ殺してやろうと思つてたのに！）

フェイトが逃げて行くのが見えた。

(あー、くそつ！ こうなつたら挑発して攻撃させてからぶつ殺してやる！ K.Y.ならすぐに挑発に乗つてくるはずだ。)

「おいこらＫＹてめえなんでなのはとフエイトの決闘の邪魔しゃがつた？」

これに返してくる答えをバカにすれば攻撃して来るはずだ。

「あのまま戦闘を始めていたら大規模な次元震が起こる可能性がある。それを止めるのは管理局員なら当然の事だ」

「ハッ！ そんなくだらねえ事でなのはトフロイトの大切な決闘の邪魔すんじゃねえよ」

さあ、攻撃して来いよ！

「そうか。しかし僕は管理局員だからな」

な？攻撃してこないだと？

それから何度も挑発を繰り返すが全然反応がない。

殺す！

「あ、
はい」

私が全然敵わなかつたアルフさんと戦つていた魔法使いの男の人
が、お話を聞かせて欲しいから艦に来て欲しいって言つていたから
返事をしたの。

その事を話せ」と思って神咲君の方を見たら、やがて来た男の子と話していたの。

でも
なんとか喧嘩みたいな雰囲気はなしてゐるよ」たまがくるの

「あの、神咲君には「フォトンバレット」ある？」え……」「

神咲君が、男の子を攻撃しました。

SIDEROUT

SIDEノロケ

「フォトンバレットオ？」

「な？」

今まで難癖つけて来ていた少年が、いきなり攻撃をして来た。

連射していく。まあヴィンセントの弾に比べたら遅すぎるが、だが、と思ひながら回避する。

「ちよこまかとお！」

瞬間、彼の持っている銃（仮面ライダー・デルタのデルタムーバーとデルタフォンが合体した状態の物）の銃口に光が集まつて来た。

「避けるんじゃ、ねえ！」

「収束砲か？」

クロノは咄嗟に回避した。

「執務官への暴行、業務執行妨害で拘束する。フリーズバインド！」

神咲桜花にバインドがかかるとそのまま時間が止まつたかのよう

に動かなくなつた。

表情筋すら動かない。

クロノの横にウインドウが開いた。

「クロノ、ヴィンセント君の説得が終わつたみたいなのでアースラまで連れて来てもらえるかしら？」

「わかりました。かあ…。艦長」

「はあ……しかしヴィンセントが作つた魔法は本当に便利だな

フリーズバインドをデバイスにインプットしてくれたヴィンセントに

感謝していたクロノだった。

EP05 介入？（後書き）

フリーズバインド……ヴィンセントがなんとなく創ったバインド魔法。拘束した相手の体感時間を止める。息は無意識下でさせるが表情筋すら動かないようにできる捕縛魔法。そのまま移動させる事も可能。

直しました。

SIDE ヴィンセント

「アースラへようこそ。バリアジャケットは解除してくれ

「スクライアの盾も変身魔法を解除したらどうだい？」

どうも、クロノを攻撃した神咲桜花を抱いでいるヴィンセント・リヒテンシュタインです。
馬鹿

原作どおりの会話だったので省略します。

で、艦長室前。

「あの、そもそも神咲君も放していいと思つのですが……」

高町が話かけて來たので思い出した。

「ん？ああ、忘れてた。」

フリーズバインドを解く。

「何を？」

おお、びっくりしてるな。まあ、いきなり場所が変わったら驚くよね普通。

「つと、これから艦長室へ入るからバリアジャケットは解除して

くれ。あとぐれぐれも失礼の無いよう」「

神咲が渋々バリアジャケットを解く。

流石に高町の前だと暴れるのはまずいと判断したのだろう。

「艦長、連れてきました」

「あら、お疲れ様一人とも」

いつ見ても不自然な和室だな。室内に鹿威しどとかありえねえ。

ああ、お腹が空いた。

S I D E O U T

S I D E 神咲桜花

「何を?」

気が付いたらアースラの中にいた。

何をされたかわからんがリンクティと舌戦を繰り広げないと予定が

狂いっ放しだ。

「ここのでなんとかしないと。

「これより、ロストロギア ジュエルシードに関しては私達が全権を持ちます。貴方達はこの事を忘れて今まで通りの生活に戻つて下さい。心配しなくても私達で事件は終わらせるから、安心して下さいね」

「は？」ここで協力するよつて言つたじやねえの？

「ああ、デバイスに関してはもうとこでいいよ。短い時間だつたとは言え大事な相棒だらうから」

は？ ちょっと待てよ？ そんな事になつたらフェイトにフラグ建てられねえじやねえか！

「冗談じゃない！」

「あ、艦長。ここの世界だと子供の門限が5：30頃が普通のみたいなんで後の処遇は明日にしません？ 今5：05なんで」

おそれらぐ転生者だとおもわれる男が言った。

「そうね。親御さんを心配させではないけないわ。そうしまじょつ」

「と、こう事だから送るよ。さつきの公園でいいかな。明日も同じ場所にいれば迎えに行くから、……明日は日曜日だよね。12：00位に迎えに行くから」

何かメモ帳のような物をめくつながら男、ヴィンセントとかっこつてたか、が答えた。

「はー田帰つてから作戦を練るか。

原作からみると離れて行くよつな『』がするな。

だが「」は訳にはいかねえ。

SIDEOUT

SIDEOUT町なのは

ヴィンセントさんが門限に氣を遣つてくれたので帰してくれました。

私はフェイントちゃんとお話ししたい。

だから明日、私はこの思いをみんなに伝えよつと思こます。

フェイントちゃんと、ちゃんとお話ししてお友達になる為に。

SIDE OUT

SIDE,ヴィンセント

薄暗い部屋で俺は一人で資料をまとめた。

「はあ……第97管理外世界の海鳴市は3年前に魔力値AAAクラスの人間32人が戦闘行為を行った事で準管理世界へ一時昇格。しかし魔法は認知されておらず戦闘行為を行った者の内のほとんどは魔法を使えたとはいえ感覚的な物で無意識下での身体強化しか出来ず、しつかり使えたのは3年前の事故で墜ちた貨物船に積まれていたデバイスを拾っていた8人のみ。デバイスを持って居た物の内4人を管理局魔導師候補生とし、残りの者はリンクカードを封印。戦闘の理由は封時結界を張り訓練をして居た一人にデバイスを持たない24人が奇襲、その後デバイス持ち4人が乱入。更に一人が巻き込まれた。奇襲をかけた彼らは『ムカついたからやつた』『力試しをしたかった』等と供述しており、乱入した者については『俺が一番じゃなきゃ駄目なんだよ』『目障りだつたあいつらが悪かったんだ』等と供述。巻き込まれた4人に関しては『襲い掛かられたから必死で逃げていた』『デバイスと仲良くなつてので教えて貰つた魔法を練習していたら襲われた』と供述した事から巻き込まれただと判断。彼らは誰も傷つけていなかつたので管理局魔導師候補生とする事でしばらく我々の庇護下に置いた。なお、この世界は今現在管理外世界に戻されている、ね」

無茶苦茶だな。

突然変異つてレベルじゃ無いだろ。

「被害者の4人は災難だつたな」

はあ……データまとめ終わつたし寝よ。

おまけ
お腹が空いたので食堂に居ます。
「あ、ヒリカさん注文いいですか？」

注文に許可がいるのは俺が滅茶苦茶食つからである。

「えーと、はい 大丈夫です」

「じゃあエクサハンバーグ定食を一皿お願ひします」

「はい、承りました」

（三十分後）

「エクサハンバーグ定食お持ちしました」

20人程の人が持つてくる。

「いただきます。」

エクサハンバーグ定食。普通のハンバーグ定食の150皿分の量
であり完食できた人間は、ワインセント以外にいなかつたりする。

「（汗）ちそうさまでした」

「「「「「「おおーー??」」」」」」

「完食時間20分！」

「よつしゃ！大穴一人勝ち！」

「くそ！25分に賭けるんじゃなかつた！」

「ランカルさん賞金の100万\$です」

何分で食べれるかで賭博が行われるレベルでアースラの名物と化
しているワインセントであつた。

EP06 現地協力者 ? (後書き)

被害者四人はそのうち出ます。

SHDEヴィンセント

「あー、まだいいやー。」

どうも高町なのは及び神咲桜花を待っていた、ヴィンセント・リヒテンシュタインです。

ପ୍ରକାଶକାରୀ ରାଜ

「……チッ……（クソッ？何でこんな事になつてんだよ。俺は才
リ主だつてのー）」

え？ お前のはレアスキルだろう？

「んじゃあ行こうか」

「わかりました」

「わしがつたよ」

うわ～約一名態度悪～
まあどうでもいいな。

「うん、どうでもいいね」

「つか？ 神様何時の間に？」

「だつて仕事終わつて暇だつたんだもん。別にいいじゃん」と云つた。まあいいけどね。

そんな事を考えながら雑木林の中に入つて行つた。

「転移ー。」

「アースラー

「それじゃ、昨日の話の続きをしまじょうか。デバイスはそのままにして事件からは手を引いて頂くとこう形でようじいですね？」

「あ、あのー？」

高町が声を上げた。

「私つ？あの子、フロイトひめんとお話がしたいんですねーだから手伝わせて下れー。」

やつぱりなんのか。

〔御愁傷様〕

はあ……

「艦長、管理局法第七十一條は覚えていますか？」

俺は頭を抑えながら言った。

「第七十一條……管理外世界においての協力者の法律ですね。確かに、管理外世界の事件において、当事者が参加を表明し説得での参加拒否が不可能であると判断した場合に限り、当事者を傭兵として一時的に現地協力者となつて貰つ、だつたかしい？」

リングディ艦長も頭を抑えている。

「はあ……できる限りの支援もですよ艦長……」

クロノに至つては頭を抱えている。

「じゃあ制度の説明はヴァインセント君に任せせるわ

全部投げられました。いや、書類まとめたり立てるのはわかるけど。

俺、この戦いが終わつたらじばらへりふと廻りふんだ。

はあ……面倒臭い……

SIDE高町なのは

「そんじゅあ制度の説明するから良く聞いてしつかり覚えるよつに！」

ヴィンセントさんが面倒臭そつた声で言つたの。

「まず原則として五回の命令無視で懲罰ありだから命令無視はすんなよ。そして神咲、てめえは四回だ。あと懲罰の内容は言わねえぞ。ここ迄で何か質問は？」

「大有りだ！何で俺だけは四回なんだよ？」

神咲君がそう言つと、ヴィンセントさんが何処からか持つて来たハリセンで神咲君を叩いたの。

「阿保か。執務官に攻撃してんだからそれなりのペナルティーは当たり前だ。もしかしてお咎めなしだとでも思つてたのか？おめでたい頭だな」

ヴィンセントさんがすごい毒舌なの。

「うぐう？」

神咲君がヴィンセントさんを睨んでるけどヴィンセントさんは平然としているの。

「他に質問は？　はい、高町発言を許す」

「懲罰つて何をするんですか？」

「高町、お前はもつと人の話を聞け……」

何だか可哀想な物を見るような目で見られたの……

SIDEOUT

SIDEワインセント

「……はあ……神咲……お前何回命令無視したら気が済むんだ？一週間で一回の命令無視する奴なをやつなんぞ初めて見たぞ？」

どうも、神咲のせいで頭痛と胃痛が治まらないヴィンセント・リヒテンシュタインです。

え？ 分り切ってた事だろ？

何言つてんですか。 あいつの命令無視のせいで一般局員が50人負傷してんですよ？

しかも一回ともテスター・ロッサが出てた時で彼女を確保しようと局員の邪魔して魔法を殺傷設定で撃つてさ。

威力は小さかったから良かつたものの全治一週間レベルの傷負わせてさ。

管理局法では死傷者が出なければ処罰したら駄目だし。

しかもそん時考へてる事が、

（これでフェイトは俺に惚れるだろー）

とか、

（フェイトフラグキター！ ） 〇 〇 〇 〇 〇

だの

なんだぜ？ 殺意の百や一一百くらいい沸くわ。

因みにその時テスター・ロッサは、

（どうして管理局の手伝いしてゐるのに私達を助けようとするの？ とか何でこっち見ていちいち笑うの？ しかも無闇矢鱈と頭を撫でて来ようとするのはどうして？ すこく嫌なんだけど……）

とか考えてたわけだが。

だいたい特典で頼んでも無いのに「^{最低な能力}コボ・ナデポなんかあるわきやねえだろ。

あー、マジで死なねえかな神咲……てか死ね。

マルチタスクとは本当に便利な物で、こんな事を考えてる間にも神咲に説教がましているのである。

「はあ……まあこ'んなもんでいいだろ……もつ'一度と命令無視なんかすんなよ」

やつ、一度4時間ほど。

「ありがとびっくりました～（くそつ？無駄な時間取らせやがつてこのボケ？お前なんざ『ピー』で『自主規制』で『ひどい罵詈雑言』？）」

やつは殺していいかな？

SIDEOUT

SIDEOUTHIT

今手元にあるジュエルシードは9個。

カイトが見つけて来たのが4個、私が見つけたのが2個、あの子と賭けたのが1個、それとあの目的がわからない変な子が渡して来たのが2個。

あの子と管理局が持っているのが6個。

あと6個はおちりく海の中。

カイトはやめてと言っているけど、私は海に魔力を流して強制的に発動させる。

早く母さんに笑って欲しいから。

今日は母さんに報酬に行く日だ。

カイトは連れていけないけど、カイトに貰ったお土産はちゃんと渡そう。

SIDE OUT

SIDE PRESENT

一時の庭園

「母さん、ジユエルシード、とつて来たよー。」

フロイトが帰ってきた。

最近あの子はアリシアみたいに笑うようになった。

本当に、幸せそうな、そんな笑顔。

確か現地で出会った協力者ができたつて報告して来た時からかしら。

もしかしてあの子、その協力者の子に気があるんじゃ……

はつ！何を考えてるのよ私は！あの子はアリシアの二セモノなのに？

「ただいま母さん！」

『ただいまお母さん！』

「つ？」

『ねえアリシア？誕生日には何が欲しい？』

『んーとね、私、妹が欲しい？それでね、一人で一緒に色々な事がしたい？』

『そ、そう。考えておくわね……』

『ははは、フレシア、もう一人作るか？』

『もうつーからかわないで！』

「……あたこ……か……わん……ぬわんー。」

その声ではつと我に返る

「『めんなれ』。少しほりうとしていたわ」

そう言えば昔、そんなお願こされてたつ。」

それに、あの人も言つてたな……

今からは遅いかもしねないけど、あの子、フュイトを娘と思おつと決めた。

少し気付くのが遅かつたけど、許してくれるよね、貴方、アリシア

.....

「ジユエルシード！九個田まで集めたよ！」

驚いた。こんな、一週間位しか経つてないのにもうそんなに集めたのか。

前に来た時に一ついで怒つた記憶がある。

なんて事をしてしまつたのだろうか。

「すいこじやない。それでこそ私の娘ね！」

今となつては褒める事しか出来ない。『めんなさい、フュイト。

「うん。」

「みんなさいアリシア。あなたの妹にひどい事をしてしまつて。

眠つている貴女を起こす為に必要なジコホールシードは少なくて
もあと6個。

もう少しで貴女の夢が叶うわよ…………アリシア…………

SIDE OUT

SIDEカイト

フェイトが帰つてきた。

様子を聞いたら、なんとあのプレシアがフェイトの事を褒めたと
言つ。

明らかに原作と違う。

神の話だと今よりも転生者は送つてゐるらしいから何が起つ
つても不思議ではないと思つていたが、まさかここ迄原作から離れ
ているとは思わなかつた。

だがハッピーホンデになるならそれもいいかも知れないな。

SIDE OUT

最後に神咲を説教してから数日が経つた。

今日はゆっくり休もう。

「エイミィ、緑茶淹れてくれないか」

「はいな。昨日は深夜まで書類整理だったそうだね、お疲れ様。
はい、緑茶」

「本当にリンクティ艦長もクロノも人使い荒いよな。所でエイミィ、
もうクロノには告ったのか?」

「えつ? ちよ、そんなんじゃ無いって!」

エイミィが顔を真っ赤にさせた。

は~やつぱエイミィからかうの超楽しい。

「お、茶柱立つてゐ。今日は良い事ありそつだな」

さてと、今日はシャワーじゃなくて風呂に入るかな~

よし、まずは飯くいに「海鳴市海上で魔力反応確認?魔導師、並
びに執務官と現地協力の方は至急ブリッジまで集まって下さい!」

……不幸だ……

SIDE OUT

EP08 最低な転生者の末路？（後書き）

フレシアは原作とは全くの別人です。

EP8・5 プレシア・テスタロッサの親愛なる夫

SIDEハンブルグ・テスタロッサ

やあ、僕の名前はハンブルグ・テスタロッサ
じゃない技術チートを持った転生者さ。

前世で僕は科学者で周りの同僚にはリアルジェイル・スカリエッティとか言っていた。

そのつながりでリリカルなのはの三期を見たし、内容まで覚えて
いる。

一期と二期は運が無かったから見れなかつたけど
因みに死因だが、どうも僕は寝てる間に心臓麻痺で死んだらしい。

それで、目が覚めていきなりヒゲのおじさんに

「君、気に入つたから転生させてあげるよ。お願いを三つまで聞いてあげよう」

とか言われて吃驚したよ。因みにその時は、

「じゃありリカルなのはミニドナルドに転生したいな。あ、も
ちろん色々な研究が自由にできる所で！後は前世より頭を良くした
いな。あと、前世では運が無かったからその辺の運も追加で」

と言つたんだ。

そしたら神様は、

「なんじゃ、原作ブレイクだー、とかそういうのは言わんのか？」

なんて言つたんだ。

その時俺はこう言つた。

「原作なんてどうでもいいから研究がしたいんだ!...デバイスの仕組みや完全なクローン、戦闘機人なんて素晴らしい物が研究できるならそれでさ!」

すると神様は笑つてこう言つたんだ。

「お主のよつな面白い奴はこれで一人目じゃよ。よろしい。ならば転生し一度目の人生を謳歌すると良い。なに、いい物件に転生させてやるつ!」

で、34年経つて今に至る訳だ。

はしょりすぎだつて?

誰が周りで見る分には退屈な実験を見たがるんだい?

「貴方、何やつてるのよ? 折角の休みなんだからアリシアと遊びましょつ?」

「ははは、『めんよプレシア。でもなんだか研究してないと落ち着かなくてね。ほら、今度僕らで実験する次元航行エネルギー駆動炉「ヒュードラ」の設計に穴が無いかチェックしてたんだ』

「はあ…………」ここまで研究が好きなんて、マッドサイエンティストの領域ね「

「君に言われたくないな。ヒューデラの研究が回つて来た時に僕以上に狂喜乱舞してたのは君じゃないか」

「あら、そういうえばそうね」

おつと、紹介が遅れたね。彼女は僕の妻のプレシアだよ。クローン研究の最先端の人が生まれた子どもを「人形だ」とて言つたのを批判したのが始まりで、それから色々してるうちに気が付けば結婚して子供が出来てたんだ。

で、その子供がアリシア。今年で9歳なんだ。

注：アリシアは原作より三年早く生まれています。

さて、明日は実験だから今日はゆっくりするか。

（翌日）

研究所

「大変です！動力炉がオーバーロード状態に！」

「こままでは次元震が起こります！」

「ツ！プレシア！緊急停止ボタンを！」

確かに設計に不備は無かつた！だとすればこれは人為的な事件か！

「ダメよー。わざわざからやつてゐけバビ反応しないのー。」

くそつ！あいつらが持つて来た仕事だから胡散臭いとは思つていいが！首になつた僕が新しいデバイスの会社を作つて、そのせいで売り上げが落ちた事をここまで憎んでいたなんて！

「不正や汚職の証拠、それと今回の事故の原因があいつらの所為だつてのは今管理局に送つたがこれでは助からない、か」

そうか。幸運が最高値でもこれでは助からないな。それだつたらー。

（神様！僕の幸運をどうかプレシアとアリシアにー。）

「監視・シールターまで退避してくれー。僕が外から扉を閉めるー！」

プレシア、アリシアと仲良くな

「あ、貴方ああああああああああああああああああああ！」

SIDEOUT

SIDEプレシア
シェルター内

同僚のハルバードが私を羽交い締めにする。

「離して…あそこにはまだあの人がある！」

「落ち着いて下さい主任補佐？主任が命を賭してまで我々を退避させてくれたんです？その決意を無駄にするつもりですか…それに娘さんがいるんでしょう？」

「でも…………あの人があ…………」

「貴女まで居なくなったら娘さんはどうするんです！生きて？主任の分まで生きて下さい？それが主任の願いでしよう？」

「ううう…………」

突如、空間が揺れる。

「次元震、来ました！」

そんな声と共に私は氣を失った。

数日後

病院

「残念ながら、娘さんは植物状態です。奇跡的に外傷はありませんが、リンカーコアに多大な負荷がかかっており、治療には膨大量的の純粹な魔力で負荷を取り除く事が必要です。しかし今はまだそんな事は出来ません」

私の中で何かが崩れる音がした。

「分かりました。…………ですがアリシアは連れて帰ります」

「そうよ。まだ方法ならある。あの人遺してくれた、時の庭園で研究をして、いつか絶対にアリシアを！」

数年後

プロジェクトF・A・T・Eがやっと完成した。しかし出来たのはアリシアによく似ただけのお人形。

こうなつたら、ロストロギアに頼ろう。
確かに文献に純粹な魔力の結晶体であるロストロギアについての記録があつたわね……
待つていて、アリシア。
絶対に救つて見せるから。

S I D E O U T

レポート1936548

次元航行エネルギー駆動炉「ヒューロードラ」の暴走事故について

今回の事故は、クラウン・オウギュスト・エレクトロニクスが故意に引き起こした物として刑事事件として研究者側が起訴した。裁判では序盤は研究者らが不利であったが、中盤へ差し掛かろうと、いう時に管理局が介入。

クラウン・オウギュスト・エレクトロニクス社の不正事実及び事故の原因である動力炉の安全装置を外している所の証拠映像が持ち込まれた事により立場が逆転。

他にも様々な汚職事実が浮上したため、裁判では研究者側の勝訴。尚、裁判の決定的な一打となつた証拠品だが、差出人が、「A researcher's prognosis」（研究者の亡靈）であつた事から唯一の死亡者であり、主任であつたハンブルグ・テスタロッサであると関係者は予想している。いずれにせよ真実は闇の中である。

— 時空管理局法務課事件レポートより抜粋 —

EP8-5 プレシア・テスター・ロッサの親愛なる夫（後書き）

感想など寄せて頂けると幸いです

SHIRE、ワインセント

「リンクティさん、命令無視します」めんざー・コー・ノ君、お願
い…」

「どうも、ただいまブリッジにて無茶やつてるフロイトを眺めてい
ます、ワインセント・コレクション・ショタインです。

「はあ……高町！スクライア！一回だぞ？まつたく……」

引き止めはしない。無理だから。

「あらがとうござります！」

神咲、高町、スクライアが走り出す。

は？神咲？命令無視三回目でカウンントしますがなにか？

もう説教なんかしねえし警告もしねえ。さて、あと一回で処罰だ
な。

どんな顔する事や？

「はあ……ワインセント、行へー」

クロノがため息をつきながら言った。

管理局法では協力者には監督役が一人必要だしね。

「了解だ。クロノ執務官殿」

（海鳴市海上）

転移したら、丁度

「二人できつちり半分こ」

のタイミングだった。

面倒臭いからさつさと封印して帰ろうつと。

は？原作ブレイク？知るか。俺はさつさと帰つて寝たいんだ。

「ゼロ、第一兵装 クロイツ、フォルム?^{ツヴァイ}セットアップ」

【了解!クロイツフォルム?セットー】

手に杖(棍)が現れる。

「バスター・ランサー シーリングモード、ファランクス?ファイア?」

バスター・ランサーはぶつちやけフォトンランサーの上位版みたいな物で、ファランクスでは十一の砲門(環状魔法陣)から毎秒十発のペースで発射される。

因みに砲門の最高生産量は52基である

因みに移動しながらでも撃てる。

「ジユエルシードシリアル X V ? ? ? X? XX! 封印!」

流石に全ては封印できなかつたが X V ? ? ? X? の封印には成功した。

「ちいっ! 一個撃ち漏らしたか……!」

まあ一つありやあ原作通りに一人で撃つだろ。

「行くよ! フェイトちゃん!」「わかった」

ちょ、明らかに入ってる魔力が半端ないんですけど？

その四分の一もあれば普通に封印できるよ？

「ティバイイイイイ！」

「サンダアアアアアア！」

「バスターアアアアアア！」

「スマッシュヤアアアアアア！」

「「ジユエルシードシリアル××？封印？」」

「わあ……えげつない。

感動的なシーンが始まった。それにつけても眠いし帰りたい。

『ツ！次元跳躍魔法確認！氣を付けて！』

エイミィからの警告だ。

さて問題です。俺は今、テスタロッサと高町を見下ろすような位置に立つて（飛んで？）います。

そして後ろから魔力反応がしています。

「」から導き出せる答えは？

ハハハハハハハハハハハハハ
…………… 神様……………俺つて呪われて
んの？

「呪われてはいなけれど幸運の値は〇・一で、この場にいる誰よりも低いね」

…それマジ? 、おお

直後、紫電がヴィンセントに襲い掛かった。周囲に肉が焼ける匂いが充満した。

SIDEOUT

SIDEN

「な？殺傷設定だと？」

高町なのはやフニイト・テスター・カイト・ヤマダとコーン・スクライアが目を見開いている。

『アラビア語入門』

「母さん？」

「フュイトの……母親？」

上から順に高町なのは、フュイト・テスター・ロッサ、カイト・ヤマダの言葉である。

ユーノは声も出ないようだ。

「うーHイミーー」

『今の魔力量から推定すると、ブインセント君はまだ……』

「くそつー」

SIDEOUT

SIDEプレシア

やつてしまつた。

フュイトの様子を見るのにスフィアを出したらフュイトが捕まり
そうな状態だつたのでうつかり次元跳躍魔法を放つてしまつた。

殺傷設定で撃つてしまつたのではや跡形も残つていなかつ。

殺してしまつて『めんなさい、管理局の』あーマジで死ぬかと思つた。しかし誰だよ普通の人間が受けたら消炭通り越して蒸発する
レベルの魔法撃つて来たの『

は？

SIDE OUT

SIDE WINセント

「あーマジで死ぬかと思った。しかし誰だよ普通の人間が受けたら消炭通り越して蒸発するレベルの魔法撃つて来たの」

まったく。なんか直撃の瞬間に虹色の鎧みたいな物が展開されたお陰で助かったが。

何だつたんだろ、あれ。今は発動出来ないし。

「ん？お前ら何で葬式みたいな雰囲気になつてんの？」

それを聞いてクロノが怒鳴つた。

「黙れ！あんな次元航行艦一隻落とせてもおかしくないレベルの砲撃で生きているお前が異常なんだ！僕の心配を返せ！」

「あー、心配掛けてごめん？」

「おまえなあ…………はあ。まあ、ヴィンセントだから、じょ、うがな
いか」

何だその言い方。まるで俺が人外みたいな言い方じゃないか。あれ?心当たりがありすぎる?

-まいいや

なんかテスタロッサとかイト君がジエラードを取つて帰るう
としてるナゾ五個は俺が持つてあるからスル。

「じゃ、帰ろつか」

「あれ？ フェイントちゃん達は？」

いつの間にか居なくなつた三人の事を思い出し、高町は素つ頓狂な声をあげた。

「は？ さつき帰つて行つたが？」

そう説明した途端に

という神咲以外の全員の驚いた声が海上に響き渡った。

因みに神咲は俺が始めに撃つたバスター・ランサーで撃墜されて海

に浮いている。

誰もいなくなつた事に気が付いて無かつたようだ。

「よし、じゃあ転移!」

神咲も忘れずに飛ばす。

その後、アースラでこいつてり絞られたヴィンセントでした。

S I D E O U T

次で無印完結！

かも。

SIDE、ワインセント

「君ら少し家に帰つて休憩するといいよ。ジュエルシードは全部確保終わつたから後はフロイト・テスター・タロッサ及びプレシア・テスターの確保だけだし」

「どうも、最近人間の三大欲求が、睡眠欲、食欲、休息欲だと思うようになつて来た、ワインセント・リヒテンシュタインです。」

「そうね。貴女達最近働き過ぎだし、親御さんやお友達にも会いたいでしょうか？」

リンディ艦長が便乗してきた。

「分かりました。ありがとうございます」

「…………分かつた（これでアリサがでかい犬を拾つたイベントになるわけか。無印ももう終わりだな）」

「あ、そりなんだ。無印はあんまり覚えて無かつたからな～。

「じゃあ送るぞ？」

「よろしくお願いします」

「よろしくお願いします」

「わざわざ」

神咲は上の一人に比べると残念な子になるな。

「じゃ、こいつらー」

二人と一匡を飛ばした。

「おつしゃあ！これで暫く業務からおさらいできるぜー！」

満喫するぜー！

「何を言つてんだ“歩く無限書庫”君？資料まとめを手伝つて貰おうか！」

「くつ？クロノ離せ！離さないとエイミヤ『例の事ぱりすがー！』

「なつ？どこで知つた！」

あれ？その場しのぎの出任せだつたのに。

「早く言わないか！（エイミヤ宛のラブレターが執務室にあるなんて聞かれたらー）」

ああ、成る程。いやーこの能力便利だわー。まあ滅多に使わないけどね。それに10分も心読めば魔力枯渇だし。

「俺が調べようと思つて調べられない物があるとでも？」

「これは本当。

霸天の書と対になつて魔導書の『征天の書』があるからな。

征天の書はキーワードを入力（念じる？）するとどういう仕組みか世界と繋がつて情報を手に入れられる。

分かるのは過去の事（リアルタイムで更新）だけだがそれで十分だ。

因みに入手したのは去年で、いきなり目の前に転移してきて起動した時にはかなり吃驚した。

つい、ベルカの技術力は次元世界一一って叫びそうになつた位だ。

因みに管制人格は無い。

形は夜天の魔導書の表紙の色が藍色で剣十字の色が赤バージョンを想像してくれると良い。

「ぐつ！分かつた。なら、今日は緊急事態が無い限りは休んでくれ。それとくれぐれもあの事は誰にも言つなよ！」

「いいだらう。交渉成立だ」

この世界では俺が裏で動き回つたからかクロノとエイミィはこの時点ですり思つた。

リア充モゲロ

「よし、先ずは飯だ！今日はカツカレー エクサボリュームだ！食べて喰つて食いまくる！」

放課後

SIDE OUT

SIDE 神咲

おかしい。アリサがでかい犬を拾つたという事を一言も発しない。

まさかあの転生者が何かした所為じゃ無いだろ? な^{カイト}。

結局アルフは墮ちていなかつた。

そのまま行くとなのはとフュイットの決闘がなくなつてしまつ。

くそつー何とかしなければー

なのはちやんー神咲君ー聞こえる?

ハイミーからの通信だ。

どうかしたんですか?ハイミーさん?

本郷でひしひしひして?

ただでさえ大変な時にどんな厄介持ち込むつもりだよ。

えーとね。今アースラに手紙が届いて、その手紙に日本語で、『果たし状、明日の朝9時に海鳴臨海公園にこられたし。ジュエルシードを賭け、決闘を申し込む。フュイット・テスター』って『ナックロッサ』

!

良かつた……………これで原作通りの決闘が起きる……………

しかし書き方が変なような?

余談だが、これはカイトの貸した漫画に影響された結果なのだが、これを知るのは数年後の事である。

SHDEOUT

SHDE、ワインセント

～翌日 海鳴臨海公園 AM 9:00～

「どうも、一人の監督役のワインセント・コレクションショータイプです」

只今臨海公園にてカイト君を説得中です。

「あ、どうも…………」

少し警戒気味だな。

「カイト君、シローさんもヒリーさんも心配してゐるから帰らなければいか?」

「ツ? (え)うじて僕の名前と両親の事を知つてゐるんだ、コイツー!」

「いや、どうして言われても一人とは知り合いだし、名前に關しては少し調べたら分かるよ?」

「ツ? (心を読まれた?)」

カイトはさらに警戒を強めた。

あ、やつべ。無意識に心読んじまつた! レアスキルがばれるかも! 誤魔化さなければ!

「いや、そんな事を思つてゐるような気がしただけだ。気にするな

カイトの警戒が少し解ける。

「やうですか。でも、僕はフヨイトを見つけたいんです」

「うわ、両親そつくりだな。この頑固さは両親譲りか。

等と話している内に決闘が始まつたわけなんだが……

「フォトンランサー フアランクスシフト リファイン・ファイア!」

数が38基なのはまだ良い。

何で俺のバスター・ランサーと同じような環状魔法陣なんだよ？

解析で術式見たけど殆ど同じじゃん！

威力が5割落なのはおいといても毎秒10発になつてるし！

吃驚していると、横からカイトが解説を入れた。

「デバイスの中の映像から貴方の術式を見てフェイトが自分の魔法に組み込んだんです」

マジかよ。

なのはに38×10×5、つまり1900発のフォトンランサーが殺到する。

「スパーク……………ヒンドー」

最後にフェイトの手に集まつた雷の槍が投げつけられる。

爆音が響き渡った。

暫くしてフォトンランサーの爆煙が晴れて行く。

「攻撃すると、バインドっていうのも解けちゃうんだね」

そこには、ところどころ焼け焦げた所があるバリアジャケットを纏つた高町なのはがいた。

「今度はこっちの、番だよ！」

【Divain baster!】

To Be Continued...

画像があります。

SIDE、ヴィンセント

「受けて見て！『ダイバインバスター』のバリエーション！』

「収束砲撃なんだからもう既に別物だよね？」

「でも、一日休んでリフレッシュして後一週間は戦えるヴィンセント・リヒテンショタインです。」

実際に見てみると似ているのは外見だけで中身全く別物なのが良く解ります。

なんつー馬鹿魔力……

「エイミィ？ 今墓穴掘つてるから墓石の準備お願い。彫る文字は『勇者ファイト・テスター』此処に眠る』で」

ちよ、縁起でもない事を言わないでよ……

「所で次元跳躍魔法の気配がするのだが補足できるか？」

「気配つて…………あ、本当だ

「ゼロ、避雷針をあの辺に設置してくれない？」

【了解しました。避雷針、設置！】

ドオン！

「よつしゃ回避成功！」

次元跳躍魔法（雷）は、見事に避雷針に当たった。

次元跳躍魔法がそんな物で回避できただまるか！

「しかしクロノ、現に成功している。あ、ハイミィ、場所の特定できた？」

「うん、バツチリ！ヴィンセント君は他の子ら連れて一旦アースラに戻つて来てくれる？」

「了解！そういう事だ！お前ら、アースラに行くぞー！」

伸びたフェイトはアルフが渋々抱いで、アースラに戻つた。

～アースラ～

「じゃあ高町とカイトはフェイトを医務室に連んでくれ。アルフは此処でいいから少し話を聞かせてくれ。神咲、お前は此処で待機だ

「「分かりました」」「分かつたよ」「チツ！」

高町とカイト、アルフ、神咲の順である。

これで後はプレシアを捕まえるだけだな。

「さて！時の庭園へ行きますか」

「俺も行くぞ」

神咲が待つてましたと言わんばかりに言つた。
だがしかし。

「お前は『待機』だといったはずだが？」

「知るか！そんなモノ！」

神咲がそのまま転送ポートへ向かおうとする。

が、途中で止まる。

胸から魔力刃が突き出たからだ。

【アスカロンfonm?】^{フイーラ}

^i38787 — 4783^

図の銃口の所から魔力刃が伸びている。

『『四回目』だ。リンカーコアを抜かせて貰う』

そのまま魔力刃を抜くと、その先には神咲の、深緑のリンカーコアがあつた。

その瞬間、周囲の時が止まつた。

「神咲桜花、前世の名 山川大輔 契約違反です。『転生ゲム』特別ルール第12条により脱落です。私は 執行者 燐天使エルトウルーカ。気軽にエル、とお呼び下さい。尚この会話は全ての転生者に聞かれますので不用意な発言は控えて下さい」

六枚の翼を持つた女性が降りて来て神咲を捕まえた。

神咲の体の中から黒田黒髪の、見るからに引きこもりな外見の青年が出てきた。

「くつ！離せ！俺はオリ主なんだぞ！第一何が契約違反だ！」

痩せ細つた体躯の青年が天使の掛けたバインドから抜け出そうとする。

「その問には私が答えましょう」

もう一人、今度は六枚の翼を持つ青年が降りて来た。

「失礼、私は審査官の、智天使ギルバートと申します。さて、転生者 神咲桜花 前世の名 山川大輔。貴殿の罪は契約違反である。契約の内容は『デバイスを除く神からの特典を一度たりとも失わない事』相違ないか?」

「そんな事、聞いてない!」

「ふむ、では証人、魔法の神 アルカトルートを召喚する。アルカトルート、この者が申している事は真か?」

杖を持つた老人が何時の間にやら現れ、それに対し答えた。彼が魔法の神という事だろ?。

「私は特別ルール第2条において、説明を聞くかどうかを問うたところ、その者は『大丈夫、分かってるから早く転生させてくれ』と言った故、そのまま転生させました」

因みに俺の契約内容は少し重めで、「神の命令には極力従え」である。

「ふむ、相違ないな?」

ギルバートと名乗った天使が神咲一山川に問うた。

「ああ、間違いなく言ったよ! つな? 口が勝手に?」

成る程、天使に嘘はつけないと。

「よつて、この者の存在をこの世界から消す。神咲桜花は残るが

この世界の情報は書き換えられる。神咲桜花に関する世界の記録は変わるだろう。その記録はこの者に関わった全ての者に送る。これにて罰の執行を終了する。契約内容の確認をしていない者はこの後忘れず確認するよつに…」これにて閉廷！』

その声と共に時が動き出す。

「ヴァインセントさん！僕もついて行きます！」

あれ？誰？この黒目黒髪の利発そうなお子さんは？

解析発動

・神咲桜花 魔力 AAA+ 才能総合値AAA+~S-

月夜の書のマスター。バーニングスカンパニーと並ぶ大企業、神咲カンパニーの社長令息。アリサ・バーニングスの許婚。アリサ・バーニングスからの信頼、信用共に最高値である。

?元?転生者

成る程、特典が消去されて特典無しの状態になるという事か。

「いや、君は高町やカイト君の所に行きなさい。直ぐに戻付けるから」

まあ、今はそんな事よりも

物語を終わらせに行きますか。

SIDE OUT

EP11 最低な転生者の末路?
(後書き)

次回予告

物語は原作と違う週末を迎える。

果たしてそれは幸福な終わり方が不幸な終わり方が

次回、無印編最終回 ～明日へ～

あまり期待しないでね!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7900y/>

魔法少女リリカルなのは 転生者による原作破壊の物語

2012年1月10日23時46分発行